



第50号
【年3回発行】
日置地区
社会教育振興会
〈事務局〉
鹿児島教育
事務所

祝第50号
「いもこじ」の精神を
これからも！

日置地区社会教育振興会の社会教育情報紙「いもこじ」は、平成18年7月24日に第1号が発刊されてから、今回記念すべき第50号を迎えます。

第50号を記念して、「いもこじ」にゆかりのあるお二人の方に熱い思いを寄せていただきました。

人と人が触れあってお互いを、切差琢磨していくというその精神は今後も引き継いでいきたいものです。



いもこじ第1号の一部

第50号を祝して

〜この頃思うこと・退任の挨拶〜

前地区社会教育振興会長 田畑誠一



子供たちは未来の宝、明日への希望を乗せた翼だと思っています。その子供たちに視野は広く、心

は豊かで、明るく何事も人の立場に立って考え行動する優しい人、それでいて逞しく、勇敢な人に育ってほしい。織りなす社会は、秩序に満ちて正義が横溢する社会であって欲しいと願う。

日置地区社会教育振興会長を永年（15年）にわたり務めさせていただきましたが、自らの力不足、努力の足りなさを成果を上げることができなかつたことを申し訳なく思っています。

しかしながら、社会教育振興会の皆様におかれましては発行50号と記念すべき「いもこじ」のように人々も地域社会もお互いが揉まれあつてこそ大きく成長していくという理念のもと、事務局の皆様、教育関係者を始めとする多くの方々の熱き思いと地域社会の親睦と融和による絆の一層の進展をもつて、青少年健全育成をはじめ社会教育の発展と振興に多大

なる御示唆と光を射し込んでくださった御功績に感謝している次第であります。

現代社会の大きな問題の一つであるいじめは人間として絶対に許されることではなく、断固排除すべく撲滅に向かつて立ち向かう気迫が必須だと思っています。

一方で社会の中で生き抜く自立のための強固で揺るぎない信念と度量を積み重ねる鍛錬への努力が大事だと思っています。私の両親は十分な教育を受けていません。父の教えは「一、負けるな、一、嘘をつくな、一、弱いものをいじめなな」でした。母の口癖は、「人間は正直でないといけません。陰日向があつてはいけません。人様が見てないところでは尚、一生懸命働くのですよ。良いものがあつたら自分は食べなくても、人様に良い方、大きい方を上げるのですよ。そして決して人様をこなつしゃんない（いじめなな）」でした。敗戦で衣食住の全てが不自由で人の心も社会も荒んでいた時代と環境の中で、青少年期を過ごしたことに今ではとても幸運だつたと感謝しています。

もう、30年位前でしようか、酷く大干ばつの年がありました。山の頂上から斜面沿いに、低地帯まで植えてあつた杉の木が枯れました。最後までたつぷり水をいただいている低地帯の杉の木は全滅なのに、一年中一番最初に水がなくなる頂上の杉の木は生きていました。自然界のこの

偉大な摂理に、私たち人間社会は立ち止まり刮目すべきと考えます。

昨年のプロ野球日本シリーズは1点を争う熱戦の連続でした。元来スポーツはラインの内か外で勝敗は決まります。だとすると野球は両翼90M・センター120Mのフィールドで判断すべきと考えられますが、こともあろうに、失礼にも場外観客席へ打ち込んだのがホームランと称され、野球最大の醍醐味と言われます。

今日の世相の中に場外ホームラン的発想が必要ではないかと思えてならないこの頃であります。社会教育振興会のみならずの御発展と青少年の健やかな成長を祈ります。長い間、大変お世話になりました。ありがとうございます。

（前いちき串木野市長）

「いもこじ第50号」の発刊に寄せて

元日置教育事務所長 川口公男



50号発刊、まことに
おめでとございます。これまで連続と発行されてこられた鹿児島教育事務所のみならず、

なさまの御尽力に敬意を表します。第1号を発刊したのが平成18年、15年前になります。担当は、市原清志指導主事でした。元日置教育事務所では、地域活性化の一助として、平成17年4月「教育事務所だより」第1号を発刊いたしました。当時は

学校教育及び服務規律の厳正確保等が中心となっていました。しかし、学校も事務所も地域に浮かぶ船のようなものであることを共通認識いたしました。地域のみなさまの御支援なくしては目的港にたどりつけない存在であることに鑑み、社会教育の情報発信の一つとして、社会教育に関する機関紙を発行することになりました。

機関紙の発行に当たって、地域の皆様に親しまれる機関紙名はないか等担当指導主事を中心に知恵を出し合っ、「いもこじ」と命名しました。編集後記には「機関紙に『いもこじ』と名付けました。一つの桶の中で芋と芋がぶつかり合い、お互いが磨き合った芋洗いの精神を地域活性化に生かすときです。」とありました。

第1号の内容は、「連携・交流」、「社会教育・社会体育の充実が地域の活力」、「我が町から」、「安全教育研修会」等でした。今回執筆を依頼され、15年ぶりに懐かしく読み返す機会となりました。

今後、ウェブの台頭により情報発信の方法も変化していくこと予想されます。現在の「いもこじ」の充実した内容等を拝見して紙媒体の魅力を再発見しております。

(元鹿児島市立大龍小学校長 現在、幼稚園型認定こども園和光幼稚園長)



日置地区社会教育振興会新会長
中屋謙治氏 (いちき串木野市長)

田畑誠一氏が、いちき串木野市長を昨年11月に御勇退され、併せて長期に渡り御尽力いただいた社会教育振興会会長も退任されました。

令和3年12月17日、書面開催による臨時総会で、新しくいちき串木野市長に就任された中屋謙治氏が新会長に選出されました。

就任にあたって

新会長 中屋謙治



この度、いちき串木野市長となり、日置地区社会教育振興会会長に選任された中屋謙治です。

社会教育は地域住民同士が学び合い、教えあう相互学習等を通して、人々の教養の向上・健康の増進等を図り、人と人の絆を強くする役割を果たしています。ネット社会となり、学びの場も広がり、学びたいことが学べるよい時代になってきました。そんなよき時代になりました。そんなよき時代になりながら、地域住民が自分づくり、地域の絆づくりを目指して、生涯にわたって学びに取り組める環境整備に努めるとともに、生涯学習による地域社会の基盤づくりを、これから後押しして参ります。



Zoom
中央ブロック子ども会ジュニア・リーダー及び高校生クラブ等
交流大会(種子島大会)

1月29日(土)、本大会がオンラインで開催されました。種子島を訪問して1泊2日で対面による交流予定でしたが、感染拡大防止のため、内容を変更して行いました。当日は、本地区から9名、熊毛地区から14名参加して、ヨガ体験、各団体による活動紹介、意見交換が行なわれました。特に意見交換では「会員の募集の仕方」等について、活発に意見交換がなされました。最後の感想では、「対面しての交流はできませんでしたが、自分たちの行っていない活動を知ることができて参考になりました。」「悩んでいることは一緒なんだと安心しました。今度、実際に会って交流したいです。」等が出されました。

午前中だけの短い時間でしたが、熊毛地区の実行委員によるスムーズな進行で内容の濃い実のある交流会、いい情報交換の場となりました。次回は、対面による体験・創作活動も取り入れた交流会ができ、有意義な時間を共有できることを期待したいです。



オンライン交流の様子

日和下駄

子供たちに豊かな体験を！

いちき串木野市教育委員会
教育長 相良 一洋

次世代を担う子供たちに規範意識や社会性、他人を思いやる心などを身につけさせるよう発達の段階に応じた様々な体験活動の機会を充実させていくことが求められています。

子供たちは、自然や社会の現実に触れる体験をすることにより、「感動したり、驚いたり」しながら、「なぜ、どうして」と考えを深め、生活や社会・自然の在り方を学んでいきます。

以前、県の社会教育施設に勤務したときに四泊五日の無人島キャンプを経験したことがあります。このキャンプは、不自由な水・食事との戦いでした。子供たちは、自然を相手に電気も、テレビもない無人島の生活を余儀なくされ、飲み水の配分の計算、火起し、調理などの体験をしながら、炊飯活動の経験の中で、協力することの大切さなどを学んできました。子供たちの活動の質は日増しに見違え、クリエイティブな行動がキャンプ生活の中に生かされ、まさに「生きる力」として現れてきました。浜辺に寝そべり満天の夜空を見上げながら人工衛星や流れ星を発見すると、自然の驚異に感動し、心が癒やされるものでした。体験することは一生の宝になります。是非、家族で体験活動に参加し、親子の絆を深めてほしいものです。